

連絡先：国土交通省（代表）：03-5253-8111
（直通）：03-5253-8620
海事局外航課 小森（内線：43303）
池田（内線：43366）

平成23年1月26日
国土交通省海事局外航課

2010年の日本関係船舶における海賊等事案の状況及び 世界における海賊等事案の状況について

1. 2010年の1年間に日本関係船舶（日本籍船及び我が国の船舶運航事業者が運航する外国籍船）が海賊等（海賊及び海上武装強盗）から受けた被害の状況について、我が国の外航海運事業者等からの報告を基に、以下のとおりまとめました。

[概要]

（1）発生件数

日本関係船舶で、2010年に海賊等の被害（単に船舶に乗り込まれたものを含む。）を受けた船舶は15件（前年：5件）ありました。

（2）発生場所

東南アジア周辺海域で9件（前年：2件）、インド洋及びアフリカ周辺海域で6件（前年：3件）の事案が発生しました。

（3）被害状況

航行中の船舶が小型船から重火器らしきものによって発砲を受け、船体に被弾、追跡を受けるという事案が、ソマリア沖・アデン湾で2件、インド洋において3件発生しました。いずれの事案も回避操船等によって海賊の追跡を振り切っています。また、ケニア沖では、ハイジャック事案が1件発生しました。

東南アジアにおいては、南シナ海を航行していた船舶が襲撃され、ナイフで武装した賊に乗組員が拘束されることにより、金品等が奪われる事案が2件発生しましたが、それ以外は錨泊中に発生した軽微な事案となっています。

被害にあった船舶について、船籍別の内訳は、パナマ籍14隻、香港1隻であり、日本籍船はありませんでした。

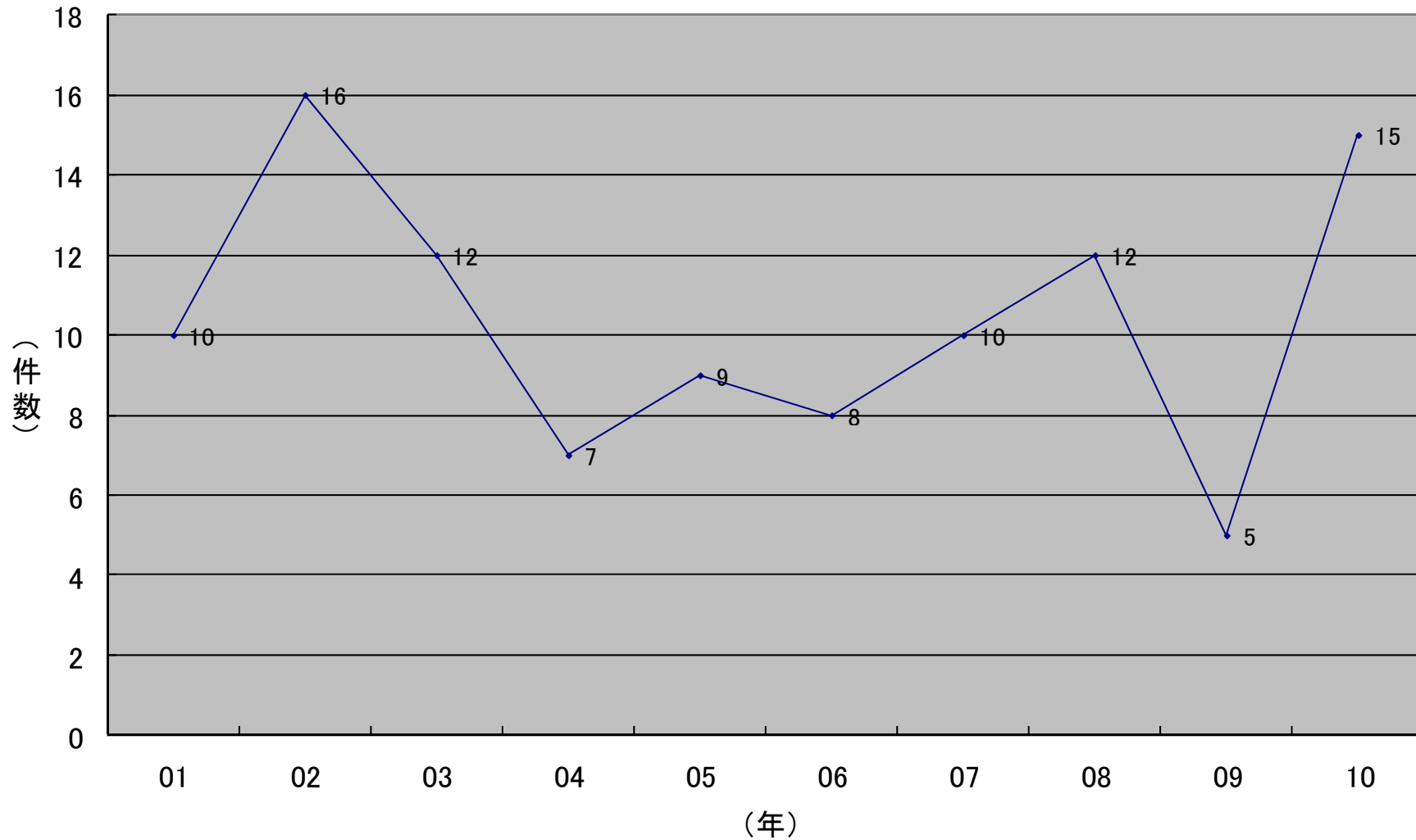
2. 国際海事局（IMB）から、2010年の世界における海賊等に関する年次報告書（速報）が2011年1月18日に発表されました。同報告書の概要については、別添4及び別添5をご覧ください。

[参考]

- ・日本関係船舶における海賊等事案の発生件数の推移【別添1】
- ・日本関係船舶の海賊等事案発生状況について（2010年）【別添2、3】
- ・世界における海賊等事案の動向【別添4】
- ・世界における海賊等事案の発生件数の推移及び海域別の発生状況【別添5】

日本関係船舶における海賊等事案の発生件数の推移

別添1



注) 計上されている海賊等事案の発生件数は、人的被害、金品の被害及び船体の被害等の実害が発生した事案のほか、単に船舶に乗り込まれた事案を含めた数となっています。船舶に対して直接的な接触がなかった未遂事案については、発生件数に含まれていません。

なお、この発生件数は、外航海運事業者等から任意に提供された事案のみを計上したものです。

日本関係船舶の海賊等事案発生状況について(2010年)



日本関係船舶の海賊等発生状況について(2010年)

別添3

※ 日本関係船舶:日本籍船及び我が国の船舶運航事業者が運航する外国籍船

| 番号 | 被害日時 (日本時) | 被害場所 | 概要 | 被害 | 船籍 | 総トン数 | 船種 | 乗組員 | 積荷 |
|----|-----------------|-----------------------|----------|------------------------------------|-----|-----------|----------|-----------------------------------|------------------|
| ① | 1月15日 0500頃 | インドネシア タラハン港錨地 | 錨泊中の窃盗事案 | 機関部スペアパーツ (船員にケガなし) | パナマ | 20,242トン | バルクキャリアー | 20名(全員ベトナム人) | 石炭 |
| ② | 4月5日 2100頃 | アデン湾沖 | 航行中の追跡事案 | 船体後方左舷側及びデッキに被弾 (船員にケガなし) | パナマ | 98,747トン | コンテナ船 | 24名(全員フィリピン人) | コンテナ |
| ③ | 4月20日 0545頃 | インドネシア ジャカルタ | 錨泊中の窃盗事案 | エンジン関係の部品 (船員にケガなし) | パナマ | 20,069トン | RO-RO船 | 21名(全員フィリピン人) | コンテナ |
| ④ | 4月22日 0508頃 | ベトナム ブンタウ港錨地 | 錨泊中の窃盗事案 | ペイント缶 (船員にケガなし) | パナマ | 46,021トン | LPG船 | 21人(日本人4名、インド人5名およびフィリピン人12名) | LPG |
| ⑤ | 4月25日 1115頃 | インド洋沖 | 航行中の追跡事案 | デッキに被弾 (船員にケガなし) | パナマ | 159,929トン | タンカー | 27名(インド人12名、フィリピン人15名) | 原油 |
| ⑥ | 5月19日 0200頃 | インドネシア タボネオ港錨地 | 錨泊中の窃盗事案 | 電源延長コード (船員にケガなし) | パナマ | 39,996トン | バルクキャリアー | 23人(日本人10名、フィリピン人13名) | なし |
| ⑦ | 6月20日 0700頃 | バングラディッシュ チッタゴン港錨地 | 錨泊中の窃盗事案 | 係船ロープ (船員にケガなし) | パナマ | 8,649トン | RO-RO船 | 19人(全員フィリピン人) | スチールパイプ 他 |
| ⑧ | 6月26日 0530頃 | バングラディッシュ チッタゴン港錨地 | 錨泊中の窃盗事案 | 係船ロープ (船員にケガなし) | パナマ | 7,771トン | ケミカルタンカー | 20人(フィリピン人16人、インド人4人) | ベンゼン |
| ⑨ | 9月5日 0405頃 | インドネシア アナンバス諸島沖 | 航行中の窃盗事案 | 現金、船員の私物 (船員にケガなし) | パナマ | 20,043トン | ケミカルタンカー | 20人(韓国人3人、ミャンマー人17人) | エチレングリコール、パラキシレン |
| ⑩ | 9月11日 0130頃 | インドネシア カリマンタン島西岸沖 | 航行中の窃盗事案 | 現金、双眼鏡、トランシーバー及び船員の私物 (船員にケガなし) | パナマ | 10,168トン | 自動車専用船 | 19人(日本人2人、フィリピン人17人) | 自動車 |
| ⑪ | 10月10日 1453頃 | ケニア モンバサ沖 | ハイジャック事案 | 不明 | パナマ | 14,162トン | 多目的船 | 20人(全員フィリピン人) | 鋼材 |
| ⑫ | 10月28日 0430頃 | インド洋沖 | 航行中の追跡事案 | 船体に被弾 (船員にケガなし) | 香港 | 161,045トン | タンカー | 27人(中国人25名、バングラディッシュ人1名、ミャンマー人1名) | 原油 |
| ⑬ | 11月20日 1210頃 | インド洋沖 | 航行中の追跡事案 | 煙突に損傷 (船員にケガなし) | パナマ | 105,644トン | コンテナ船 | 24人(インド人5名、フィリピン人18名、バングラディッシュ1名) | コンテナ |
| ⑭ | 12月13日 0226頃 | ベトナム ブンタウ港錨地 | 錨泊中の窃盗事案 | ペイント缶 (船員にケガなし) | パナマ | 39,895トン | チップ専用船 | 21人(フィリピン人4名、ミャンマー人17名) | バラスト |
| ⑮ | 12月13日 2022頃 | アデン湾沖 | 航行中の追跡事案 | 船橋窓破損 乗組員2名軽傷 | パナマ | 8,259トン | ケミカルタンカー | 21人(韓国人2名、フィリピン人19名) | 石油化学製品 |

◆ 世界における海賊等事案の動向

国際商業会議所（ＩＣＣ）の国際海事局（ＩＭＢ）が１月１８日に発表した年次報告書（速報）によると、２０１０年に世界で発生した海賊等事案の件数は４４５件でした。

ソマリアの海賊によるものと推測される海賊等被害件数は２１９件と昨年とほぼ同数でしたが、アデン湾での発生件数は５３件と、昨年からほぼ半減しています。これは、２００８年以降アデン湾で活動する各国海軍によるパトロールと商船がベストマネージメントプラクティス３（ＢＭＰ３）に基づく自己防衛措置を実施した成果によるものです。

しかし、ソマリアの海賊は、南方ではモザンビーク海峡まで、東方では東経７２度のインド洋まで活動を拡大しています。ソマリアの海賊により、４９隻の船舶がハイジャックされ、１０１６人の船員が人質となりました。

アフリカのその他の海域では、ナイジェリアのラゴス港付近において被害が発生しており、ソマリアの海賊と比較して、船の係留中又は沿岸付近での航行中に、乗組員に対しての傷害を伴う被害が報告されています。

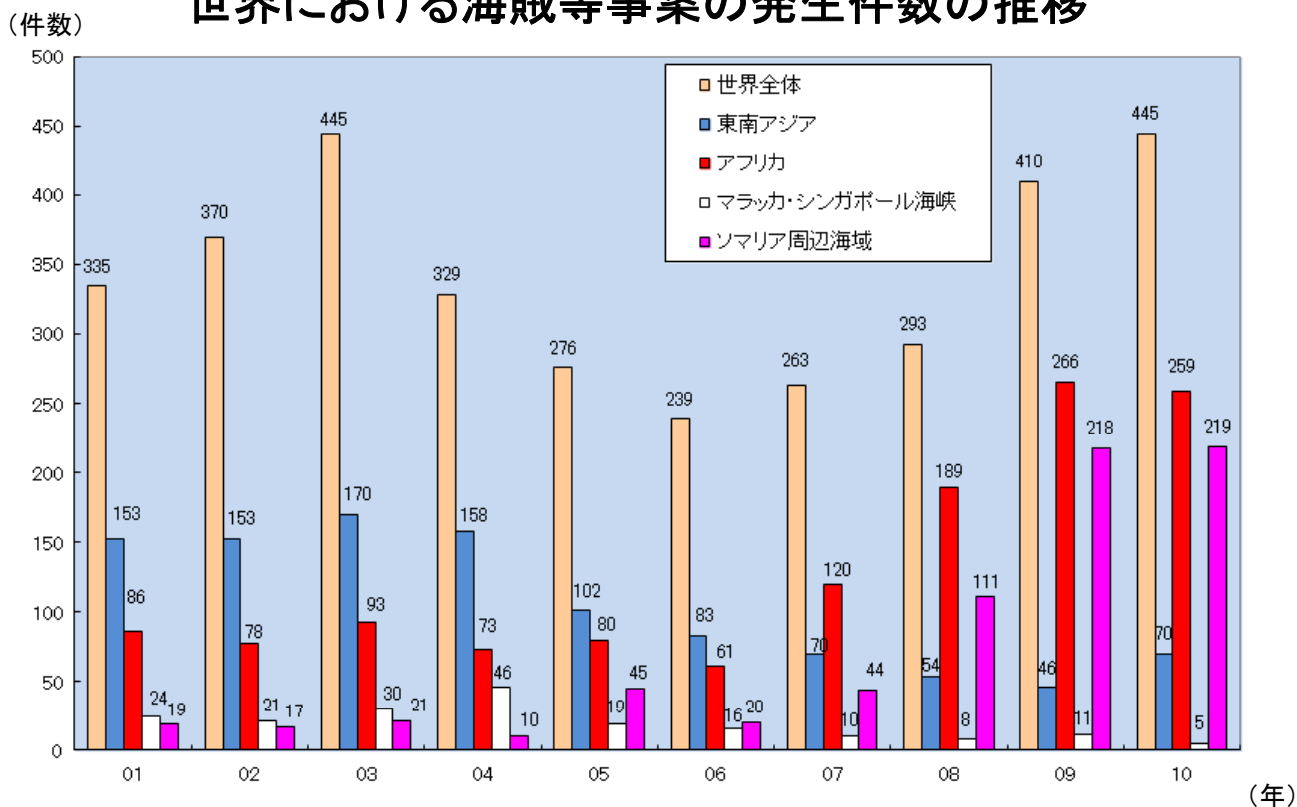
東南アジアの海賊等被害件数は７０件となっており、昨年より増加しています。特にインドネシアでは４０件と、２００７年以降最も高い件数となっており、停泊中の他、航行中の被害が１５件発生しています。

南シナ海の海賊等被害件数は３１件であり、昨年より倍増しています。２隻が発砲を受け、１隻がハイジャックされました。

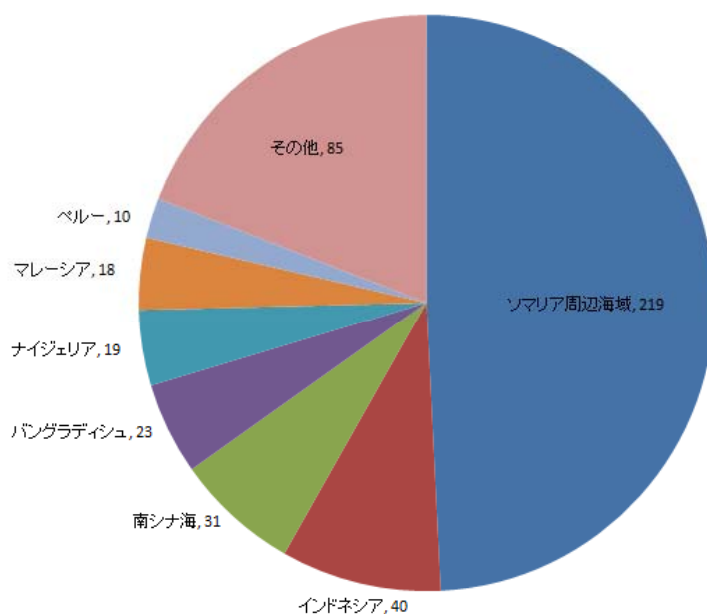
バングラデシュでは、チッタゴン港での錨泊中にナイフで装備した強盗による武装強盗事案が増加しています。

注）国際海事局（ＩＭＢ）は、国際貿易等に関する取引慣習の統一化等を行う民間団体である国際商業会議所（ＩＣＣ）の専門部局であり、海賊など海事関係の犯罪に対する防止対策等について、独自に情報を収集し、その分析等を通じて、広く海事関係者に助言を行っている機関です。

世界における海賊等事案の発生件数の推移



海域別の発生状況(2010年)



- (注)
- ・マ・シ海峡及びソマリア周辺海域の件数は、それぞれ東南アジア、アフリカの内数である。
 - ・2001年から2008年までのソマリア周辺海域の件数は、ソマリア及びアデン湾・紅海の件数の合計。
 - ・2009年より、IMBの年次報告書における整理から、ソマリア周辺海域の件数は、ソマリア及びアデン湾・紅海の件数にアラビア海、インド洋、オマーンにおける海賊事案をソマリア周辺海域の海賊事案として計上している。